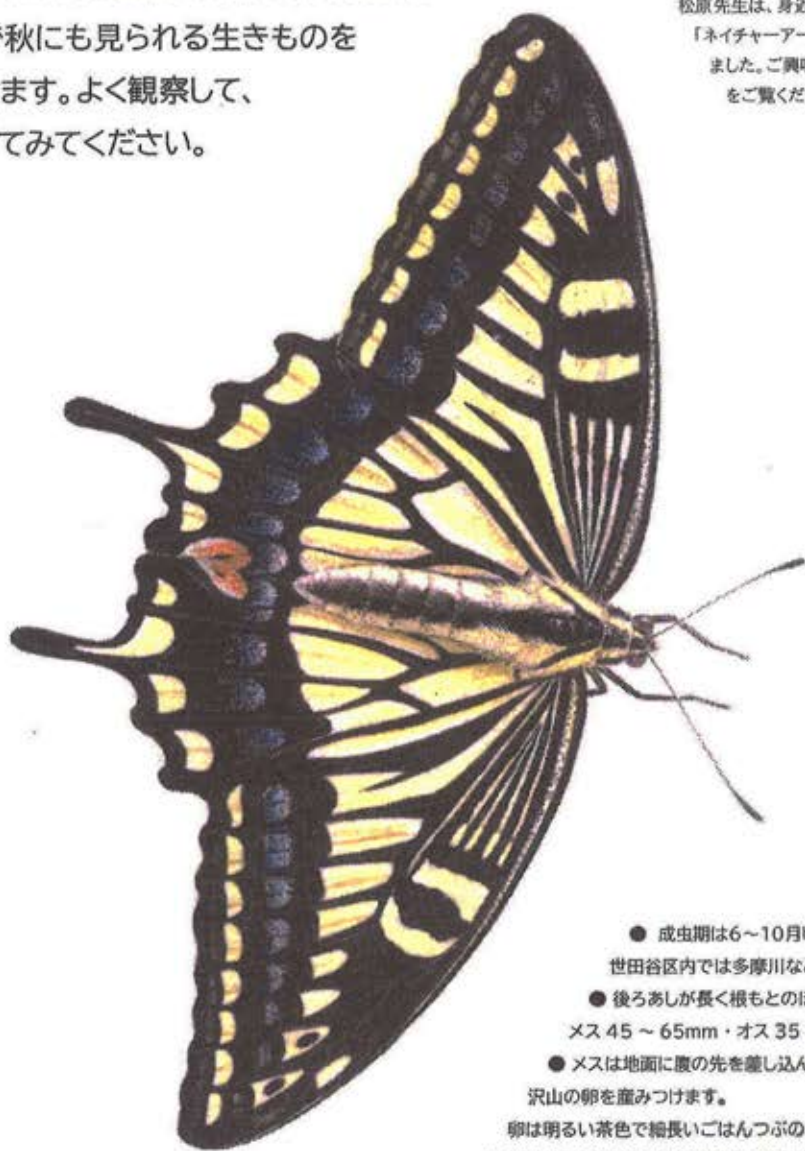


ぬりえずかん

世田谷で秋にも見られる生きものをご紹介します。よく観察して、色を付けてみてください。



細密画^{まつびゐ}：松原 巖樹 先生

1935年東京生まれ。一般社団法人日本理科美術協会名誉会長。一貫して生物画を描き続ける。図鑑・事典などの生物画ほか、生物を題材とした児童向けの絵本など多方面で活躍している。

松原先生は、身近な自然からのメッセージを細密画として表現する「ネイチャーアート」の講座を、当財団で何年にも渡り実施くださいました。ご興味のある方は、ぜひ、書籍「ネイチャーアート入門」*をご覧ください。 *発行：一般財団法人世田谷トラストまちづくり



アゲハ：〈アゲハチョウ科〉

- 世田谷区内でもよく見られ、庭や公園で飛んでいます。
- 卵はミカンやカラタチ、サンショウなどに産みつけられ、幼虫はその葉を食べて大きくなります。
- 成虫の大きさは40～60mmほど。4～10月頃、公園や畑の近くでよく見られ、花のみつを吸います。

● 成虫期は6～10月頃、荒地・草地などに住みます。世田谷区内では多摩川などで見られます。

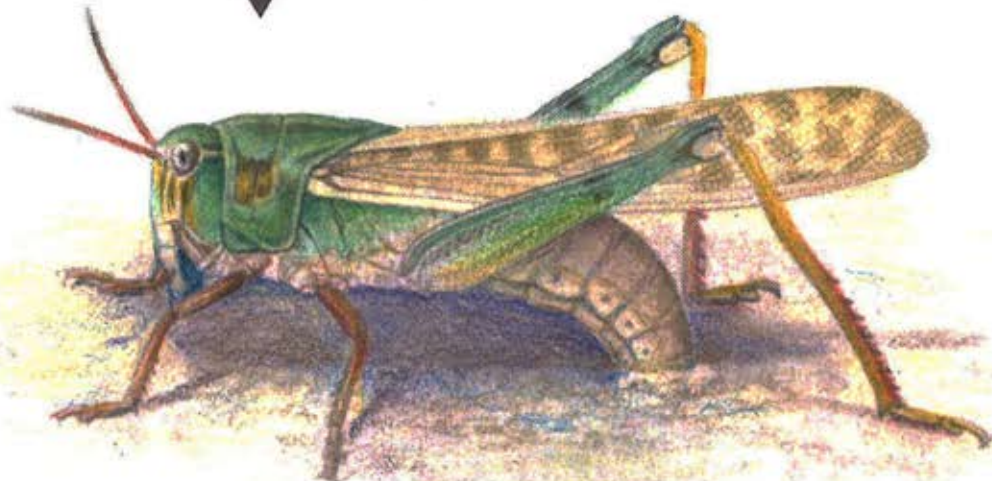
● 後ろあしが長く根もとのほうが太く、飛ぶ力が強いです。メス45～65mm・オス35～40mm。

● メスは地面に腹の先を差し込んで、スポンジのようなものといっしょに沢山の卵を産みつけます。

卵は明るい茶色で細長いごはんつぶのような形をしています。

● 秋に産まれた卵は、卵のすがたで冬を越し、春に幼虫となります。幼虫はイネ科やカタクリ科などの植物の葉を食べて大きくなります。

トノサマバッタ(産卵)：〈バッタ科〉



ひとことメモ

トノサマバッタには、緑色のタイプと茶色いタイプがありますが、これは緑色のタイプです。頭と胸を緑に、翅は茶色くぬっててくださいね